

原著

小学校教員養成課程「家庭」および「生活」における キャリア教育の授業開発（1）

— 人生すごろくを基にして —

小林 久美¹⁾・鈴木 哲也²⁾

Development of Career Education Lessons for Elementary School Teacher Training
Courses in “Home Economics” and “Living Environment Studies” (1):
Based on “Life Sugoroku”

Kumi Kobayashi¹⁾ and Tetsuya Suzuki²⁾

要 約

本研究は、小学校教員免許取得を志す学生の小学校キャリアや将来の生活（ライフイベントや年金）に対する考えを明らかにするとともに、小学校教員を希望し、大学での学修や採用試験に真摯に取り組もうとする学生を育むために、小学校教員養成におけるキャリア教育の授業を開発した。これまでに高等学校の家庭科で実施してきた「人生すごろく」をベースとし、「20代から40代」と「50代以降」の2つの年代に分けたカードの作成と年金の計算を新しく取り入れた教材を開発した。2023年12月から2024年1月にかけて4クラス（受講人数は計92人）で実施し、授業前後の学生の変容をアンケートや振り返りの内容から分析した。多くの学生がこれまでにキャリア教育を受けてきたが、深掘りして考えられた学生は4割程度だった。しかし、今回の授業の達成度をみると8割以上の学生が自分の将来について考えられたという結果となった。また、学生の振り返りの具体的な記述内容から、将来に向けての意欲を記入したものが6割程度いたことや働きたい年数が平均6.4年伸びたこと等も分かり、本教材の効果を確認できた。

キーワード：小学校教員養成課程，家庭，生活，人生すごろく，キャリア教育

I. 問題の所在

1999年12月中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（文部科学省，2011）の中で「キャリア教育」の必要性が提唱され、平成20年3月公示された新しい小・中学校の学習指導要領の中には、随所にキャリア教育が目指す目

標や内容が盛り込まれた。しかし、2020年3月卒業者の3年以内の離職率（厚生労働省，2023）は高卒就職者が37.0%、大学卒就職者が32.3%と前年度よりも増加していた。現在においても自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことは容易でないであろう。

全体に比べて離職率は少ないものの、このような

1) 小林 久美 東京未来大学こども心理学部 (Tokyo Future University)

2) 鈴木 哲也 東京未来大学こども心理学部 (Tokyo Future University)

状況は、教員についても言える。令和2年度実施の小学校教員採用試験の受験者数のうち新卒は、17,484人で、その年度に免許を取得した者は28,187人だった（文部科学省, 2023）。教員免許を取得したにも関わらず、教員にならない理由（岐阜県教育委員会, 2024）として、「他にやりたい仕事が見つかったから」、「休日出勤や長時間労働のイメージがあるから」、「職務に対しての待遇（給与等）が十分でないから」などが上位に挙げられている。また、教員採用試験受験者の減少には、ワークライフバランスが保障されにくいことや、校則などで自由を制限するような学校の仕事が忌避されている（石本, 2023）。

このような状況の中、大学生へのキャリア教育も多数実施されている。例えば、自分のキャリアの節目を考えさせる「人生年表作成」（坂本, 2014）、大学生の未来展望に注目した「かつてにパッピーエンドゲーム」（福山・森田, 2024）、キャリアデザイン力を育成するためのプログラム開発（渡邊, 2010）、過去だけでなく未来を含めたキャリアをデザインするためのライフ・キャリア・レインボー（星野, 2019）などがある。いずれもキャリアを仕事としてのみ捕らえたものではなく、人生、生活、生き方や考え方にまで及ぶ内容である。

筆者らは、これまでに家庭科と数学科の教科等横断授業で高等学校において「人生すごろく」を実践してきた（小林・中和 他, 2022・小林・鈴木 他, 2023）。これらの実践は、他の人生すごろくとは違い、ゲームの中で自分自身の人生を考えることはせず、ある一人の人の人生をグループで考えることで、あまりセンシティブにならずに進められることを狙っていた。また、ゲーム性を高めるためにさまざまなイベントが書かれたピンチ&チャンスカードを引く形式で実施したものである。授業の評価としては、生徒の振り返りから、自分の生活や将来を考えた記述が多くみられ、概ね授業の目標は達成できた。また、他の班の発表を聞く授業計画にしたことで、職業についても考えるきっかけとなっていた。

本研究の目的は、小学校教員養成におけるキャリア教育を実施し、小学校教諭としての将来や人生を考えることができ、小学校教員を希望し、大学での学修や採用試験に真摯に取り組もうとする学生を育てるために、「人生すごろく」をベースにした教材を開発することである。具体的には、授業前後の学生の変容を通して、教材の効果を検証する。

II. 調査の方法

小学校免許課程に設置する教科専門科目の中で、比較的ライフプランニングについて扱いやすい「家庭」、「生活」の授業を利用して、「家庭」では「家族・家庭生活；人生すごろく作成」の回で、「生活」では「ライフプランニングとキャリア教育」の回で本授業を設計する。授業実施は、2大学で2023年12月から2024年1月にかけてで、4クラス（受講人数は計92人）で実施する。これらの授業は第1学年と第2学年の開講科目である。

授業の事前事後アンケートおよびワークシートの振り返りなどを分析対象とする。なお、本研究で使用するデータは、学生から研究対象になることについての許可を得たデータのみを使用する。

III. 授業の概要

これまで実施してきた高等学校での「人生すごろく」（小林・中和 他, 2022）の2点を変更し実施することとした。第1点目は、ピンチ&チャンスカードの内容が引くタイミングで年代にそぐわない内容になることがあったため、年代を20代から40代のカードと50代以降のカードを準備した。第2点目は、長い人生の中でリタイア後に必要な年金についての内容も盛り込んだ。なお、年金については、別途詳細に検討する。

つまり、今回の授業の目標であり、教材の最大の特徴は、小学校教師としての中長期の視点で人生を俯瞰できること、そして年金を見据えた人生を想像できることである。

具体的な授業の内容を表1に示した。

表1 授業の流れ

授業回数	内容	活動の詳細
第1回 (90分～100分)	事前アンケート実施 1) ピンチ&チャンスカードづくり(グループ)	1) 資料 ^{註1} を見ながら、20代から80代までで、結婚・子ども・親の介護、仕事、健康、家、天災・事故、その他の項目で思いつく箇所にイベントを記入する。
	2) 85歳時点での貯蓄額と貯蓄額の増減をグラフに記入(個人)	2) ワークシートに23歳～85歳までのメモリのない横軸、金額メモリのない縦軸に予想を記入する。
	3) 年金の概要と公的年金の計算演習	3) 年金の概要をパワーポイントで説明し、公的年金の計算演習を3～4問計算する。
第2回 (90分～100分)	1) すごろくを実施(グループ)	1) 第1回目に提出したイベントの内容のカードを引きながら、グループでAさんの人生を体験する。年代ごとにイベントや収支をワークシートに記入する。年金についても計算し、収入に記入する。
	2) 発表(グループ)	2) どんな人生だったかをグループごとに発表する。
	3) 振り返り記入(個人) 事後アンケート実施	3) ワークシートに振り返りを記入する。

1) 第1回目

まずは、人生すごろくに使用するピンチ&チャンスカード作成のためのイベントをグループで考えさせる。20代から80代までのイベントについて、表1の活動の詳細にある項目で思いつく箇所にのみ記入と指示する。参考になるように資料を配布する^{註1}。次に、個人で生涯の貯蓄額の増減を予想してグラフに記入させる。その後、年金の概要と公的年金の計算演習を実施する。

2) 第2回目

5年ごとに必ず止まるマスのあるすごろくボード(写真1)で、人生すごろくをグループで実施する。学生個人がそれぞれに進めるのではなく、グループで架空のAさんの人生を体験していく。架空のAさんにしている理由は、それぞれの学生が主人公とな

ると、ゲームを自分のこれからの人生のように捉えてしまい、考えすぎでゲームが進まなくなることを懸念して、イベントに感情移入しないように配慮している。また、グループで一人の人生を進めるのは、複雑な収支を手分けして計算したり、対話による学びが得られるようにするためでもある。

マスに止まると、学生が考えたピンチ&チャンスカードを引き、イベントの内容を書き込む。65歳のマスでは、必ず全員が止まり、その後の年金の計算をする。

それぞれのカードには、そのイベントに関する収入や支出も載っている。生活費も含めたイベントごとの収支を計算していく。生活費については、第1回目で使用した資料の中の「1ヶ月に係る生活費の平均」を参考に、家族の人数なども考慮し、支出として計算していく。65歳以降の収入は、第1回目の

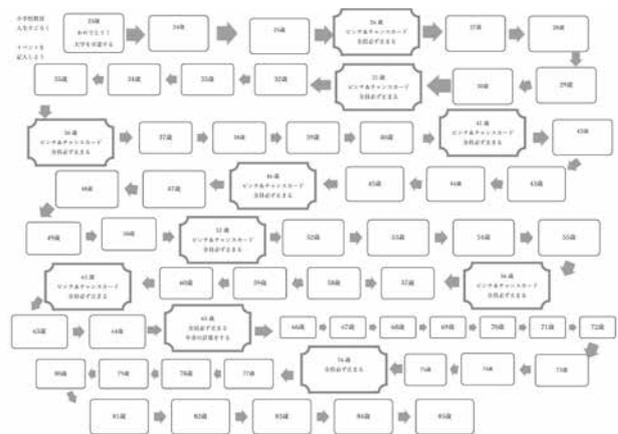


写真1 すごろくボード



写真2 すごろくの様子

年金の計算方法を使用し、収入とする（写真2）。最後に、グループごとにAさんがどんな人生だったかを発表し、個別でワークシートに振り返りを記入する。

IV. 結果および考察

受講学生92人のうち事前アンケート回答者は、79人（85.9%）、事後アンケート回答者68人（73.9%）、振り返り提出者は72人（78.3%）であった。

1. これまでのキャリア教育の授業と自分の将来

1) キャリア教育の受講経験

これまでに学校教育の中でキャリア教育を受けたことがあるか、またその理解度はどうかを尋ねたところ、「生涯の職業生活を踏まえて生活を設定できる」、「生涯を見通した自分の生活について考える」、「生活課題に対応した意思決定が必要であることが分かる」、「自立した生活を営むようになる」のすべての項目で、8割から9割の学生が受けたことがある事が明らかになった（図1）。しかし、受講経験があっても内容を自分なりに考えたり、深掘りしたりできた学生は4割程度だった。

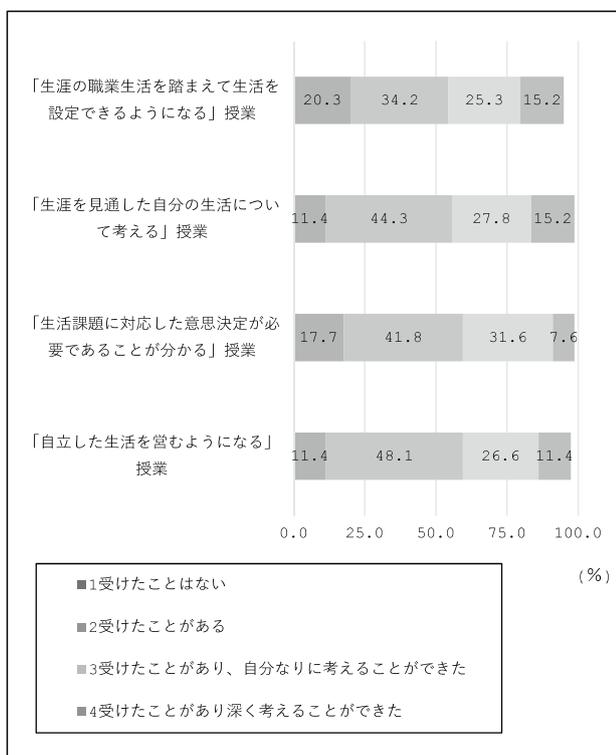


図1 これまでに受けたことがある授業内容 (n=79)

2) 将来の計画や予想

自分の生活設計について、何歳くらいまで考えたことがあるかについては、無回答を除くと、「20代」、「今」、「少し先」と回答した学生が38.8%と最も多く、次いで30代が22.4%で半数が30代くらいまでの生活設計を考えたことが明らかになった。

ピンチ&チャンスカードを作成するために、グループで自分の生活設計に限定せず、将来起こりうるイベントを項目ごとに考えさせたところ、20代、30代で起こるイベントは思いつくが、40代以降は減少していく様子を読み取れた（図2）。

学生が考えたイベントの内容は、「結婚・子ども・親の介護」が多かった。20代で結婚（19グループ）、30代で出産（11グループ）、40代で子育て（13グループ）、50代で子どもが成人（4グループ）、親の介護（5グループ）、60代で親の介護（10グループ）のようなイベント内容であった。次に多かったのは、「仕事」で、20代で就職（14グループ）、30代から50代で昇進や再就職、60代で退職（10グループ）という内容が主であった。就職や転職の際の職種については、小学校教員（6グループ）が多かったが、芸能関係、サービス業、自営業、社長、YouTuberが各1グループずついた。また、「家」については、20代

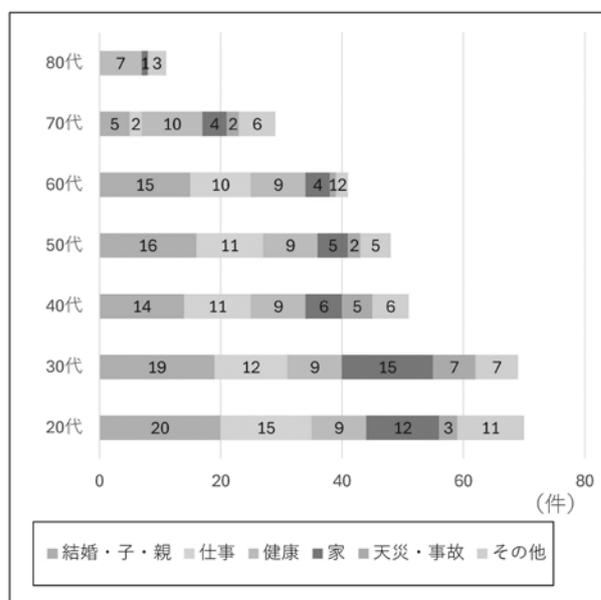


図2 ピンチ&チャンスカード作成のためのイベントに記入があった項目 (20グループ)

と30代での購入が多く出された。合計319件のイベント内容が提出された。

2. ピンチ&チャンスカードの精選

上記のイベント内容のなかから、同様の内容を削除するなどし、80枚のカードを作成した(表2)。マンションを4億5千万で購入など、通常ではありえない金額のものは削除した。また、宝くじで1億当たるや10億当たるという記述もあったが、これも収支の計算の際に通常の人生と大きく異なるため、当選金額を下げ、サイコロの目によって当たりの金額を変えるように書き換えて使用することとした。他にもイベントのみを記入し、金額が書かれていないものには、資料^{註1}に基づいた金額をこちらで記入した。

表2 ピンチ&チャンスカードの内訳(枚)

	20～40代	50代～	計	例 上(20～40代) 下(50代～)
結婚・子・親	8	12	20	・結婚、出産 -200万円 ・親の介護 年間 -180万円
仕事	8	3	11	・今の仕事を辞めてサービス業の正社員になる ・個人経営飲食店スタート
健康	8	6	14	・ピラティスに通う月 -3万円 ・脳梗塞になる -30万円
家	5	3	8	・マイホーム -4500万 ・親の家を引き継ぐ(無料)
天災・事故	2	4	6	・地震が起きました -15万 ・高速逆走事故 -116万
その他	8	12	20	・車を買う -200万 ・遺産相続 +900万
計	40	40	80	



写真3 使用したピンチ&チャンスカード

残したカードの内容は、学生が提出したイベントの比率に合わせるようにして作成したため、支出の項目が62(77.5%)枚と多かった。「その他」には、20代から40代のカードに車の購入や夫婦間のトラブルを、50代以降には家族の葬儀、海外旅行、遺産相続などを残した。20代から40代以降のカードを黄色、50代以降を緑色の画用紙に印刷したものを使用した(写真3)。

3. 振り返りの分析

振り返りに書かれたキーワードを抽出し、2022年に高校生に実施した結果と比較した(図3)。今回、もっとも多く出現したキーワードは「年金」で、高校生を対象とした小林・中和 他(2022)の研究では見られなかったが、年金の説明や計算演習を取り入れた今回の授業設計の成果が現れた。また、小学校教員のキャリア教育の授業を展開したため、大学生の方には「小学校教員」(小学校の先生、教師なども含む)というキーワードも出現した。大学生の方が高校生よりも多く記入したキーワードは、「子ども」、「支出」、「結婚・家族」、「仕事・給与」についても10ポイント以上多かった。また、老後・介護に

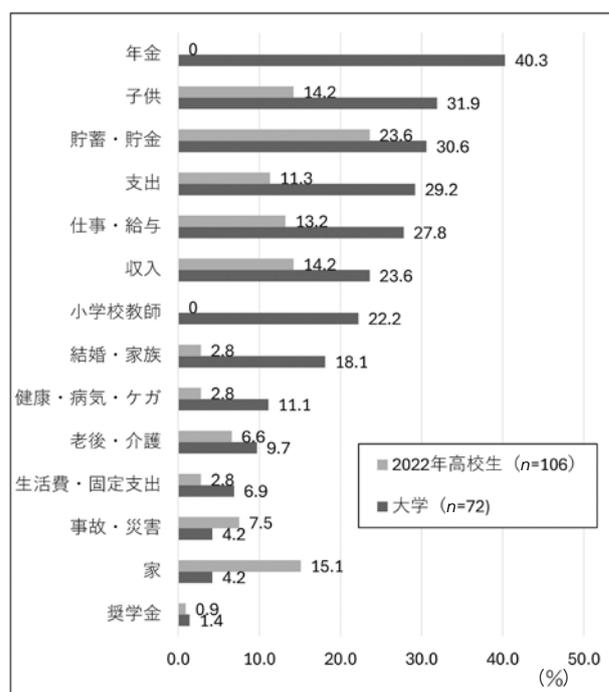


図3 振り返りに出現したキーワード

については、7人（9.7%）であったが、退職後について記入の2人（2.8%）を含めると、学生にとっての遠い将来である65歳以降について記入したものが9名（12.5%）いることが分かった。

72人の記述内容は、主に「①Aさんが送った人生についての説明」16.7%（12人）、「②授業を通して分かったこと」31.9%（23人）、「③人生などについて考えたこと」33.3%（24人）、「④自分の今の生活に照らして考えたこと」23.6%（17人）、「⑤自分の将来に向けて考えたこと」58.3%（42人）であった。主な記述内容を表3に示した。

表3 振り返りの記述内容の抜粋

<p>① Aさんが送った人生についての説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生において急な病気やけが、事故など予期せぬことでの支出や収入が沢山あり、自分の身にも起こるかもしれないと親近感を持ちました。 ・あっという間に85歳まで到達してしまった。
<p>② 授業を通して分かったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、何歳で結婚、出産などあまり考えていませんでしたが、今回人生ゲームを行って、イメージを少しすることができました。収入、年金など細かく計算することは初めてだったけど、どんなふうに収入と（ママ）得て、老後はいくらくらい年金をもらえるかが具体的に分かって良かったです。 ・年金の計算をしてみて、定年まで働くのとそうでないのでは意外と差があることが分かった
<p>③ 人生などについて考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生は正直何が起こるか分からないと感じた。 ・転職などしてしまうと場合によっては年金の額が減ってしまったりますので、職を変えるのも色々大変なのかなと思いました。 ・自分は楽しく色々悩みながらしっかり生きて最後死ぬ時に後悔がないように生きていきたい。
<p>④ 自分の今の生活に照らして考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費とか高すぎて自分の親を尊敬すると同時に自分ができるのか不安になりました。 ・身近にいる人として、お父さんはすごいなと思いました。自分は三人兄弟で、学生時代が被っていたりしたこともあったから、それを考えると今より倍くらい払っていたのだろうなと思いました。
<p>⑤ 自分の将来に向けて考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまで生きられるかわからないけれど小学校教員になってできるだけ長く努（ママ）めたい。 ・年金以外にも日頃の貯金や投資、株などをやって将来の貯蓄にしないといけないと改めて感じました。そして、若々しく定年した後でも働けるような身体にならないといけないと思いました。 ・将来何が起こるか分からないため安心して家族全員が暮らしていくために今のうちから貯金をする習慣を身に付けていきたい。

「②授業を通して分かったこと」は、「人生の中で起こる出来事か、どんな職業に就くかによって支出や収入に大きな差が出ることが分かった。また、老後に貰える年金の合計金額にも影響が出ることが分かった。（後略）」のように人生には様々な出来事があり、お金がかかることや年金について述べられたものがほとんどであった。「③人生などについて考えたこと」は、「（前略）自分は楽しく色々悩みながらしっかり生きて最後死ぬ時に後悔がないように生きていきたい。」といったポジティブな記述もあったが、「（前略）貯金していくことの大切さを痛感したのと同時に何のために今頑張っているのか、どうして生きていくのかわからなくなった。」のようなネガティブな意見もみられた。「④自分の今の生活に照らして考えたこと」のほとんどが「子どもが生まれ、養育費、教育費が想像以上にかかることに衝撃を受け、親の負担にとっても心が苦しくなりました。」のような親への感謝の気持ちが記入されていた。

もっとも多い記述内容であった「⑤自分の将来に向けて考えたこと」具体的な内容は「（前略）出来ることなら75歳まで先生やりたいです。」「（前略）働けるうちに頑張って沢山働きたい（後略）」などのような仕事をしたいとの記述が20人、「年金以外にも日頃の貯金や投資、株などをやって将来の貯蓄にしないといけない」などの貯蓄に関する内容が13人と多かった。また「計画を立てる」6人、「やりがい」5人、「心身の健康」4人などが記入されていた。

4. 仕事をしたい年数

授業前後に、何年くらい働きたいか「仕事をしたい年数」を尋ねた結果、授業前は、0年から57年（平均28.4年）で、授業後は45年から60年（平均34.8年）となり、全体で6.4年伸びていた（図4）。これは、授業前後の回答が揃った51人の結果である。振り返りにも「きっちり65歳（定年）まで働くとその分しっかり年金がもらえるのでめげずに働こうと思いました。」「自営業と公務員のお金（年金）の違いを学べたので小学校の教師を貫きたい。」など、今回、年金の計算を取り入れたことで、仕事に対する前向き

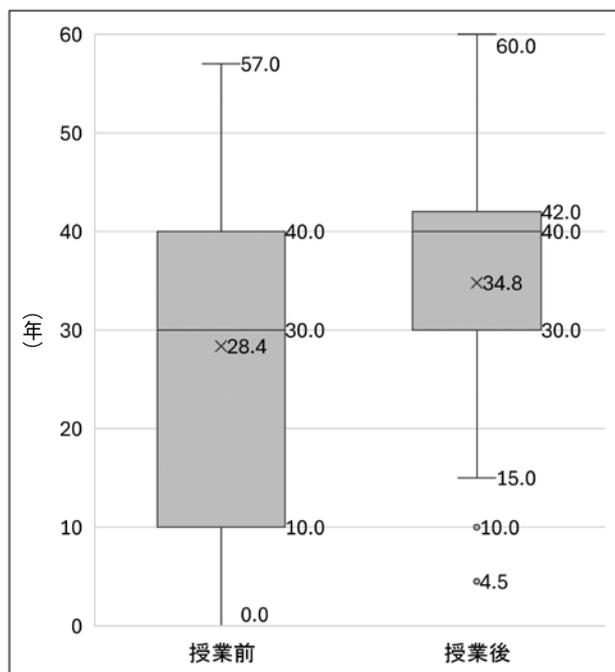


図4 授業前後の仕事をしたいた年数

な意見がみられた。

5. 授業達成度

本授業の達成状況を測るために学生にどのくらい考えられたか度合いを聞いた結果、「生涯の職業生活を踏まえて生活を設定について」、「生涯を見通した自分の生活について」、「生活課題に対応した意思決定の必要性について」、「自立した生活を営むことについて」のすべての項目で、約半数の学生が「深く考えられた」とした結果となった(図5)。

将来の備えとして現在やりたいことの授業前後の比較をすると、表4の授業後の記入内容数74件(127.6%)からも分かるように、いくつもの内容を記入する学生が増えた。

記入内容を見ていくと、授業前に「勉強」に関する内容を書いた学生が授業後に1人減少したが、「お金」に関わる内容は増加した結果となった。増加した「お金」の記述をみると、授業前では、「貯金」という単語だけの記入が12人中10人(83.3%)であったが、事後は貯金に関する内容は35人中24人(68.6%)であった。その内容も「なにか予期せぬことが起きたときなどのための貯金」、「生活能力や貯金など将来を見越した行動をしていきたい」など具

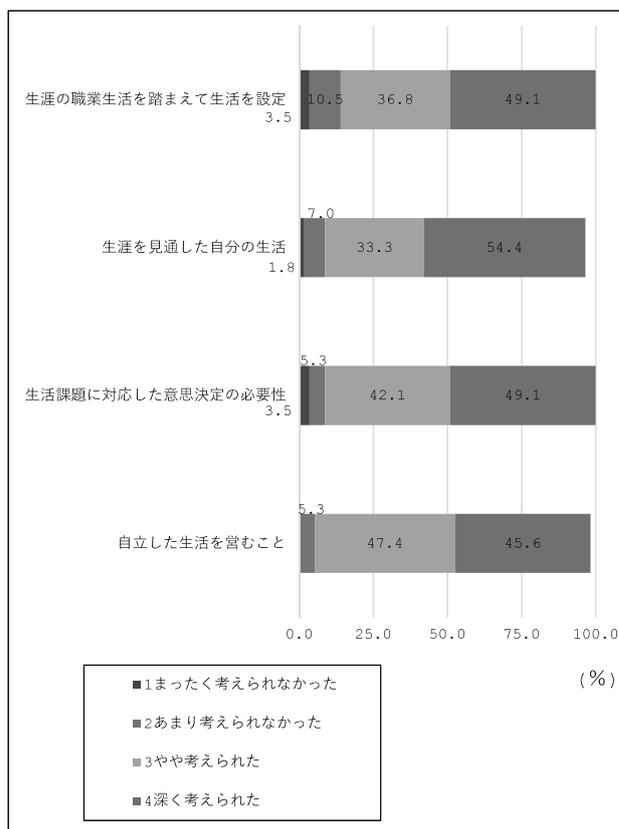


図5 授業後にどのくらい考えられたか

表4 将来の備え

記入内容	授業前		授業後	
	件	(%)	件	(%)
勉強	18	31.0	17	29.3
(教員採用試験のための勉強)	2	3.4	4	6.9
(教員免許を取るための準備や勉強)	6	10.3	4	6.9
(資格取得の勉強)	1	1.7	4	6.9
(その他)	9	15.5	6	10.3
お金	12	20.7	35	60.3
(貯金)	10	17.2	24	41.4
(その他)	2	3.4	11	19.0
健康	4	6.9	3	5.2
パートナー	3	5.2	1	1.7
生活技術	2	3.4	2	3.4
将来設計・計画	0	0	6	10.3
その他	0	0	10	17.2
備えの計	39	67.2	74	127.6
ない	16	28.1	4	7.0

* 前後アンケートが揃っている58名対象

体的な記述もあった。さらに「貯金」だけでなく、お金の管理や使い方について記入した記述も現れた。

また、将来への備えが「ない」という学生は16人(28.1%)から4人(7.0%)に減少した。授業前に将来に備えていることが「ない」と回答した16人の学

生の授業後の記述をみると、「お金」の記述が9人、「勉強」が3人、「将来設計」が2人あり、「ない」や空白のものは4人だけになっていた。

V. まとめ

これまでにキャリア教育を受けている学生は8割から9割であったが、内容を自分なりに考えたり、深掘りしたりできた学生は4割程度であった。また、人生のイベントに関する予想をみても30代までは様々なイベントを思いつくものの、それ以降は徐々に減少し、80歳ではほとんど思いつかない状況であることが分かった。20歳代前後の学生にとって、後期高齢期までしっかり見据えて人生設計をすることは難しいかもしれないが、高齢化が進むなか、しっかりと高齢期の生活をも設計していくことが大切である。

今回の授業評価として、まず、授業の達成度から「やや考えられた」、「深く考えられた」を合わせると8割以上の学生が自分の将来について考えられたことが分かり、目的を達成できたと言える。また、ワークシートの振り返りには、小学校教諭や仕事というキーワードも2割程度記入されていた。貯金についても3割、年金については5割の学生が言及し、将来や人生を考えることができたと言評できる。振り返りの具体的な内容を見ても、将来に向けての意欲を記入したものが6割程度いた。さらに、子育てに多くの養育費や教育費が係ることを実感し、現在の生活の中で親に感謝する学生多く現れたことも、Aさんの人生を追体験できるこの授業の効果であるといえる。

将来の備えでは、備える内容を授業後に複数記入した事や、授業前後で学修（「勉強」）に関して、具体的に「教員採用試験の勉強」、「資格取得の勉強」との記載内容が増えた事からも、将来の備えについて深く考えられた事が分かった。

さらに、働きたい年数が授業前後で平均6.4年伸びたことは、年金の計算を取り入れたこの授業の効果であると考えられた。

今回の授業開発は、小学校教員養成に特化したキャリア教育の内容であったが、高等学校でも「C 持続可能な消費生活・環境」で年金生活へのリスクの備えを考察する内容があるので、職種などにバリエーションを持たせた高校生よりの授業開発もしていきたい。

註

註1：資料の内容は、病気の療長に関する費用、冠婚葬祭にかかる費用の目安、車に係る費用の目安、事故の加害者になった時・離婚の慰謝料・その後の養育費の支払目安、週2回学習塾料金の目安、留学費用、家の修繕時期の目安と相場※100㎡の場合、家購入全国平均費用、介護施設費用、海外旅行費用（航空券・ホテル代）、単身赴任引っ越し相場、1年あたりの子どもにかかる費用、1ヶ月に係る生活費の平均、それぞれの表を資料としている。

本研究はJSPS科研費JP24K05921の助成を受けたものである。

文献

福山佑樹・森田裕介（2024）：大学生のポジティブな未来展望の獲得を目指したゲーム教材の実践，日本教育工学論文誌，47，14.

岐阜県教育委員会（2023）：岐阜県の教職魅力化のための大学生調査（結果概要）<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/364484.pdf>（閲覧日：2024年2月28日）

星野宏（2019）：ライフ・キャリア・レインボー作成による大学生の将来に対する意識変容，日本福祉大学全学教育センター紀要，7，101-108.

石本雄真（2023）：教員免許希望者へのアンケート調査にみる教職や教員への考え方の変化，鳥取大学教育論文集，13，45-54.

小林久美・中和渚・齋藤和可子・高阪将人・森田大輔・渡辺快（2022）：高等学校家庭科と数学科における教科横断授業内容と生徒の記述に基づく反応類型，日本教科教育学会全国大会論文集，46，528 - 529.

小林久美・鈴木哲也・中和渚・齋藤和可子・中島康希・森田大輔・高阪将人（2023）：改善した高等学校家庭科と数学科における教科横断授業での生徒の記述の分

析—2022年と2023年の結果の比較—, 日本科学教育学会年会論文集, 47, 749-750.

厚生労働省 (2023): 新規学卒就職者の離職状況 (令和2年3月卒業者) を公表します, [https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177553_00006.html#:~:text=厚生労働省は、令和、ポイント上昇\)とりました%E3%80%82](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177553_00006.html#:~:text=厚生労働省は、令和、ポイント上昇)とりました%E3%80%82) (閲覧日: 2024年3月1日)

文部科学省 (2011): キャリア教育とは何か, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1306818_04.pdf (閲覧日: 2024年2月28日)

文部科学省 (2023): 令和3年度 (令和2年度実施) 公立学校教員採用選考試験の実施状況について, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1416039_00005.html (閲覧日: 2024年3月1日)

坂本麗香 (2014): 女子大生のライフプランの現状と課題への提言—キャリア教育における人生年表作成の試みより—, 名古屋大学紀要, 60, 55-68.

渡邊席子 (2010): 大学生向けキャリアデザイン力育成プログラムに関する研究: 人生すごろくを用いた総合教育科目向けのアプローチ, 大阪市立大学大学教育研究センター, 8 (1), 53-65.

(こばやし くみ・すずき てつや)

【受理日 2024年11月20日】